

2021年度事業報告

2022年6月2日 公益社団法人京都保健会理事会

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の波が繰り返し襲う中、京都保健会は存在意義を発揮して地域の医療・介護を支え続けました。その結果、経営に関しても、2027年度に予定していた債務超過克服を10月に前倒しで達成、償却前利益は2022年3月末時点で年間目標額を超過達成し、12月には2022年度から2026年度までの新中期計画を社員総会で決定するなど、今後5年間の新中期計画達成の強力な土台を築いた1年となりました。

① コロナ禍の中で、京都保健会は存在意義を発揮して地域の医療・介護を支えた

2021年度は、新型コロナ感染拡大の第4、5、6波が次々と襲う中、京都保健会内の各事業所はそれぞれの存在意義を発揮して、地域の医療・介護を支えてきました。京都民医連中央病院は重点医療機関として、中等症から軽度の陽性者の入院を受け入れてきました。2021年度は、入院受入数は424人、延入院日数は3,762日に上ります。京都協立病院は協力医療機関として、同じく2人を受け入れました。全病院・診療所（3病院12診療所）が診療・検査医療機関の役割を担い、多くの発熱患者の外来診察やPCR検査を実施してきました。ワクチン接種も、全病院・診療所が、自施設での接種と集合・職域接種会場への職員派遣も含めてとりくみ、自施設での接種回数は、2022年3月末までで41,274回を数え、京都府全体の5月23日現在の累計接種回数1,361,360回の3.03%を占めています。複数の事業所は引き続きワクチン接種にとりくむ予定です。第6波での自宅療養の陽性者が急増する中、吉祥院病院、京都民医連太子道診療所、上京診療所、仁和診療所、久世診療所、まいづる協立診療所（第5波時）が陽性者への往診を担いました。また、2021年9月から京都市の健康観察業務を京都保健会本部が「京都市保健所京都民医連中央チーム」として受託し、延10,912件の健康観察を行いました（訪問4件含）。各介護事業所も、いくつかのクラスター発生もある中、献身的に地域の介護を支えてきました。2021年度のコロナ禍の中での京都保健会全体の頑張りを、共に讃え合いたいと思います。

② 債務超過克服し、運営に必要な資金を確保

コロナ禍という極めて特殊な経営環境の中、2027年度に予定していた債務超過の克服を、2021年10月に大きく前倒しで実現することができました。事業収益も過去最高となりました。全職員の努力の結果です。運営に必要な資金を確保できました。無料低額診療事業は、実績額が1.2億円で、入院が減少、外来が増加し総件数は増加しています。

引き続きポストコロナを見据えて、経営実態を正確に捉え、経営力をさらに強化する必要があります。

③ 2026年度までの新中期計画を決定、計画推進に向けた整備の促進を図った

2021年12月18日の臨時社員総会で、全会一致で中期計画の見直しを決議し、新中期計画を策定することができました。旧中期計画策定時の2015年度以降の到達を総括し、2022年度から2026年度までの5年間の京都保健会全体と全事業所の事業・経営・人事計画を明確に定めた、道標です。

中期計画策定後、計画推進に向けた整備を促進してきました。法人内外の連携の可視化にとりくみま

した。民医連内での毎日のWEBカンファレンス、民医連外のケアマネや訪問看護ステーションとの合同カンファレンス開催など連携も広がっています。今後毎月のデータを元に、法人内外の連携の深化を図ります。在宅医療拡大のための実態分析も深めてきました。

中期計画の実践のための組織体制の整備を進めました。常務理事会の下に、新たに法人内連携推進委員会、ヘルスケア委員会、IT企画推進部・IT企画推進委員会、診療所所長確保推進委員会を設置し、それぞれ機能しはじめています。

④医師をはじめとした職員の確保と養成

医師の確保と養成では、2021年度は、初期研修医5、専攻医8（内科7、総合診療1）、キャリア医師3の合計16名を、2022年4月には、初期研修医5、専攻医9（内科7、総合診療2）、キャリア医師6の合計20名を受入れました。初期研修定員が2022年度に5から4に削減されましたが、2023年度は5に復活しました。

看護師の受入は、2021年度に新卒35名、既卒12名、2022年4月に新卒37名、既卒1名を受入れました。看護幹部の育成、人事交流のとりくみでは、看護協会管理者研修や認定看護師など計画的養成を図っています。

リハビリテーションスタッフの採用では、理学療法士1名、作業療法士7名の計8名を受入れました。

⑤社会健康医学福祉研究所のとりくみ

所長を中心に「難病支援」「産業保健」「有機化合物質の環境問題」等にとりくみました。京都大学SPHとの共同研究事業は4年目となり、人材育成ではジェネラリスト育成コース（32名の受講）、中央病院生物統計セミナーを実施しました。また、2021年11月に京都大学SPH主催、京都保健会共催にて「新しい感染症対策のあり方に関するシンポジウム」を開催し約400名が参加しました。2022年度は人材育成コースのブラッシュアップと京都大学SPHとのHPH関連の共同研究事業を重点課題とします。

以上